

山行報告

鉢伏山(9月3日～4日)

参加者 会員(障害者3名、健常者9名)
会員外(健常者1名)

9月3日

塩尻駅で予約しておいたタクシーに乗って、鉢伏山荘を目指す。急な車道をぐんぐん上がると、広々とした牧場が現れ、歓声が上がる。見晴が良く、牧歌的な雰囲気のところ、車で簡単に来られることに驚き、期待が膨らむ。

目指す鉢伏山も見えてきた。鉢を伏せたような山容を見て、みなさん山名に納得する。鉢伏山荘でタクシーを降り、山頂に向けて登山始める。足下や草原には、トリカブトやウメバチソウ、ハクサンフウロ、カワラナデシコなどが咲いている。小さなコゴメグサの仲間、タチコゴメグサだろうか？ またハナイカリかなと思う花も咲いていた。



鉢伏山山頂にて
岩がゴロゴロした道を登ると、すぐに山頂に着

いた。展望台に登り、大声で歓声を上げる人や四季の歌を歌い出す人もいた。でも、どちらも同じ人だったような・・・。(^^)

山頂は、天気がよくと北アルプスから南アルプス、そして八ヶ岳や富士山まで素晴らしい展望を楽しめそうだったが、今回は雲が多く、近く的美ヶ原や霧ヶ峰方面、そして足下の諏訪湖が見えているだけだった。

鉢伏山荘に戻って昼食を取り、ここからアスファルトの車道を歩くことになる。舗装されていると、ショックがそのまま足に跳ね返ってきて痛くなる。早く終わって欲しいと思いながら、歩を進める。キベリタテハやヒョウモンチョウの仲間が、花から花へ舞い楽しませてくれる。

車道を歩いて、高ボッチ山への分岐にある高ボッチ高原自然保護センターからそのまま下ることにした。時間が遅れていることもあり、少し離れている高ボッチ山は見送る。タクシーから見えた牧場の脇を歩き、駐車場に出たところで、時間が遅れていることをタクシー会社に電話する。東山の近くに行ったら、もう一度電話することにして電話を切る。

ここから登山道に入るが、入る人が少ないようで、道は少し不明瞭だ。それでも赤いテープなどを探しながら、前進する。途中から、急な斜面を真っ直ぐに下るところに出た。ルートがジグザグに取らず、真っ直ぐに取っているため下が見え、しかも滑りやすいため慎重にならざるを得ない。

ここをようやく過ぎると林道に出た。ここを歩きながら、タクシー会社に電話を入れ、塩尻

峠より少しでも上まで上がってもらうことにした。低く傾いた太陽がススキの穂を金色に染め、その脇を少し足早に歩いていくと、ようやくタクシーが見えた。みんなタクシーにお礼を言い、岡谷駅まで運んでもらう。

岡谷駅で日帰りの人たちと別れ、Iさんの山荘に行くため小淵沢に向かう。小淵沢からIさんの車に乗せていただき、温泉に入り汗を流して、Iさんの山荘に向かう。山荘で、食事の準備をしてくださっていたIさんの奥様に感謝し、その夜は3時まで語り合っていた方もいた。

9月4日

朝起きて、山荘のベランダに出ると、巣箱が3カ所に取り付けられていた。この巣箱にすべてシジュウカラが入るそうだ。その様子をベランダから双眼鏡でみているというIさんの環境にうらやましさを感じる。

朝食を食べ、ゆっくりしたあと、バーベキューの買い出しにIさんを含めて3人の方に行っていていただく。残ったメンバーは、Iさんの奥さんの案内で近くを散策する。林の中では、リスが木を上下に行ったり来たりしている。またエナガやヤマガラも、木々を飛び交っている。そんな様子を観察し、山荘に帰ってバーベキュー

尾瀬ヶ原・至仏山(10月8日、9日)

参加者 会員(障害者5名、健常者12名)
会員外(健常者1名)

10月8日

沼田からのバスは超満員で乗れない人もいたため、臨時バスが出ることになった。座れない人も何人がいたが、戸倉まで行き、小さなバスに乗り換える。登ってくると、周囲が紅葉で美しくなってくる。電車の中では青空も見えて

ーにかかる。NさんのオカリナやIWさんのフルートを聞きながら、バーベキューに舌鼓を打つ。楽器の音色は、林にこだまし、Fさんはこ



んなひとときを過ごせて最高に幸せだったと言っていた。

帰る時間が迫り、名残惜しいIさんの山荘を後にして小淵沢駅に向かう。小淵沢からは2階建ての快速ビューやまなしで都内に向かった。

コースタイム

9/3 鉢伏山荘(10:45)...鉢伏山(11:10,11:30)...
鉢伏山荘(11:50,12:25)...高ボッチ高原自然保護センター(14:15)...林道(15:15)...塩尻峠展望台の上(16:35)

いたが、鳩待峠に降り立つと、すぐに雨が降り出した。雨の中での昼食も困るので、ここで昼食を取ることにする。



尾瀬ヶ原にて

車で来て、私たちと同じバスに乗れなかったHさんも合流し、歩き始める。木道が滑りやすく、何人が滑って転んでしまった。天気は良くないが、紅葉はなかなかきれいだった。ウルシやツタウルシ、ツツジなどの葉が真っ赤に色づいている。

雨もいつしか止み、美しく紅葉した至仏山の山腹も見えてきた。橋を渡って少し行くと、山の鼻に到着する。ここで、トイレを済ませ、尾瀬ヶ原の木道歩きとなる。どんよりと曇っているが、草紅葉が美しい。しばらく歩くと、浮島の点在する池塘群となった。水草は、オゼコウホネだろうかうっすら紅葉して美しい。山腹との境目には、紅葉の始まった白樺が並び、白い幹がきれいなコントラストを作っている。足下には、まだエゾリンドウが咲いていた。

牛首を過ぎると、その先には、どこまでも広い尾瀬ヶ原が広がっていた。東電小屋への分岐となる三叉路で休憩し、どこまでも続いているような木道を歩く。湿原の中を川が流れ、ダケカンバが3本くらい固まって咲き、味わいのある風景が続く。先を見ると、樹林の中に竜宮小屋が見えてきた。

受付を済ませ、部屋に上がり、風呂も楽しませてもらった。食事の後は、食堂でそのまま尾瀬のビデオを楽しんだ。

10月9日

夜半に外に出てみると、雨が降っていた。明け方まで、小屋の屋根から水滴が落ちる音が続き心配したが、起床時間の5時には止んでいた。昨晚作っておいてもらった弁当を食べてから出発する。

どんよりとたれ込めた雲の下を、昨晚の「晴れのち曇り」という予報を信じて、きっと晴れるさと言いついて軽やかに歩き始める。写真を撮影する人たちは、日の出が終わったからか、三脚を抱えて戻ってきた。

草紅葉を楽しみながら、牛首を越え、池塘群

の付近に来ると、次第に雲が薄くなり、至仏山の山腹がよく見えてきた。上空にもうっすらと青空が見えてきた。これは期待が持てるぞと、楽しみが膨らむ。



木道を歩く

山の鼻で、夜行できたKさんとMさんと合流し、至仏山への登りにかかる。木でできた急な階段を登る。残念ながら、また雲に包まれ、景色は見えない。滑りやすい木の道を登ると、次第に岩が出てきた。森林限界に達し、登山道は、完全に岩の道となった。この岩は、濡れるととにかく滑りやすい。しかも泥が付いて、つるつるだ。

みんなで苦労して、何とか乗り越えていく。途中で、Nさんの足がつったが、Tさんのマッサージなどで快復し、さらに登り続ける。途中で霧が晴れ、視界が開けてきた。周囲の斜面の紅葉が美しく、景鶴山(けいづるさん)方面も一部見えてきた。さらに目を凝らしていると、尾瀬ヶ原の池塘も雲の切れ目から見えてきた。周囲で歓声が上がる。遮るものが何もなくて見える尾瀬ヶ原も良いが、雲の切れ目からわずかに見える尾瀬ヶ原も、貴重なものを見たようで、心に残るように思う。

ようやく高天ヶ原に到着し、ベンチに座ってお昼にする。ここからは、緩やかな登りで、ほどなく山頂に到着した。残念ながら、雲に包まれて、何も見えなかったが、山頂標識の前で記念写真を撮って、登頂を喜び合う。ただ、時間的にかなりオーバーしているため、ゆっくりはできない。夜行できて、今晚は竜宮小屋に泊ま

るといふMさんを見送り、本隊も早々に山頂を後にする。



至仏山山頂にて

ここからも、滑りやすい岩場が連続するため、慎重にサポートしながら進む。小至仏山を過ぎたところで休憩し、さらに続く岩場を慎重に下る。ようやく岩場が終わった頃、笠ヶ岳方面への分岐を過ぎ、さらに水場を見送って良いペースで下り始める。鳩待峠まであと2 km、1 k

伊豆ヶ岳(10月15日)

参加者 会員(視覚障害者3名、健常者5名)
会員外(健常者7名)

天気予報が直前まで良くなく、実施するかどうか苦しい判断を迫られていたが、寒冷前線が関東周辺の山にブロックされて、雨の降り出しは遅れるだろうと読んで、決行することに決める。当日の早朝、天気予報を見たら、降水確率が20%程度に下がっていて、ホッと一安心した。

池袋駅では、明るく元気の良さそうな立教大学の学生たちが、声をかけてきてくれた。乗り換えのない快速電車に乗り正丸駅で下車する。ここで、立教大学のN先生、初参加のSさん親子、そしてAさんと落ち合い出発する。

しばらくは舗装道路を歩く。柿の実が赤く熟

mという案内板に元気づけられ、緩やかな道を下っていくと、鳩待峠に到着した。次々に運んでくれる乗り合いタクシーに乗車し、そのまま戸倉を過ぎて、沼田まで走ってもらった。

予定より2時間くらいオーバーしたが、全員無事に登頂し、そして下りてくることができました。頑張ってくれた視覚障害者のみなさん、そして苦労してサポートしてくださったみなさん、ありがとうございました。

コースタイム

10/8 鳩待峠(12:30)...山の鼻(14:00,14:10)...
竜宮小屋(15:50)泊
10/9 竜宮小屋(5:50)...山の鼻(7:20,7:40)...至
仏山(12:20,12:35)...小至仏山
(13:50,14:10)...笠ヶ岳への分岐(14:50)
...鳩待峠(16:10)

し、コスモスが咲き、秋の風情が感じられる。コスモスには、オオスカシバがハチドリのようにホバリングして、長い管で蜜を吸っている。Sさんの娘さんYちゃんは7歳だ。道の脇や電柱の上に張ったクモの巣を数えながら歩いている。



学生さん達がサポートを経験する

正丸峠への分岐から直接伊豆ヶ岳に登るコースに進む。歩きやすかった道は、次第に沢沿いとなり、滑りやすく段差の多い道となる。さらに名郷へ抜ける道を右手に見送り、沢沿いの道

を進む。沢の奥まで来ると、植林帯の急坂が待っていた。足下もズルズルと滑りそうで、木の根に掴まって登っていく。久しぶりの登山だった視覚障害者のMさんは、かなり苦しんで汗びっしょりだったが、それでも頑張って登り切った。

登り切るとしっかりとした登山道に出くわした。左手から右手に向かって登っている。左手から、途中で私たちを追い越した人たちが上がってくる。私たちは、どこかで道を間違っ、近道？をしてしまったようだ。

傾斜が落ちたところで、学生たちにサポートを経験してもらおう。この頃から、ぱらぱらと雨が降り出した。幸い樹林帯のため濡れずにすんだ。しばらくすると、青空が見え始めた。雨もすぐに止み、その後は降られることもなかった。

稜線に飛び出すと、そこは男坂と女坂の分岐だった。男坂に行ってみたが、岩場が濡れていて、つるつるのため、あきらめ女坂に行くことにする。ただ、立教のN先生は、学生たちに登らせたいということなので、先生の責任で登っていただく。Yちゃんは、歩くことより登ることが好きだと言って、登りたそうだったが、お母さんから止めてもらい、一緒に女坂に行く。



女坂のハードルのような階段を登り、山頂に到着した。しかし、男坂を登ってくるN先生たち

が見あたらない。Aさんと数人で様子を見に行く。結構滑りやすく、厳しかったようだが、無事に到着してお昼タイムとする。山頂の標識前で記念写真を撮る。近くの武川岳などが見えていて、雨に当たらなかったことをみんなで喜び合う。

山頂を後にして、正丸峠に向かう。このころから、Yちゃんの独壇場だった。学生たちや参加者と、次から次へといろんな話をして、みんなを楽しませてくれる。この話し声は、正丸峠を過ぎ、正丸駅までとぎれることなく続いていた。

正丸峠からは国道299号を歩き、ガーデンハウスの手前で山道に入る。植林の中のみちは、木の根が出ていたが、大学生たちがサポートしてくれて、順調に下り、車道に飛び出した。

登りはじめに休憩した分岐から、Yちゃんが大学生のザックを背負って歩いてみることにする。重いザックも何のその。車道を駆け足で下っている。後ろ向きで歩いたり、とにかく元気で明るい。駅前に通じる最後の階段で、Kさんよりも「一步先に着いたんだよ」と楽しそうに話していた。

正丸駅で車で来たN先生と別れ、電車に乗り込む。ここでも、Yちゃんは学生たちと立ったまま、楽しい話に花を咲かせていた。今回は、Yちゃんや学生たちのおかげで、ものすごく明るい山行になりました。また次ぎに会える日を楽しみに、それぞれが家路につきました。

コースタイム

正丸駅(9:40)...正丸峠への分岐(10:20)...伊豆ヶ岳(12:10,13:00)...正丸峠(13:50,14:10)...正丸駅(15:10)

九鬼山(10月30日)

参加者 会員(障害者4名、健常者9名)

会員外(健常者4名)

前日の雨も上がり、今日は雲が多いものの雨の心配はなさそうだ。

禾生駅で声出しをする。今回は、初参加の方が3人をはじめ、久しぶりの参加の方もいて、総勢17人となった。

駅前から陸橋に登る。九鬼山の全容がよく見えた。落合橋を渡って、少し行くと杉山新道との分岐に着く。ここから、左手の道に行く。植林帯から雑木林に出ると、所々展望が開ける。高川山がよく見えた。こちらのコースは、急登があって歩きにくいと書いてあるが、いつになったら急登が出てくるのだろうと心待ちにしていた。



九鬼山山頂にて

尾根に出て、しばらく行くと、ようやく傾斜が増してきた。しばらく上がっていくと、真っ直ぐに伸びたルンゼ状の滑りやすい土の道が上に延びている。左手にジグザグの道もあったが、真っ直ぐの道を登っていく。10分ほどで通過しただろうか？

その上はなだらかな傾斜となり、さらに少し傾斜の強いところを登り切ると、富士見平だった。ガイドブックによると、九鬼山の山頂は、展望が良くないと書いてあったので、ここに戻ってお昼にしようと思い、ザックを置いて山頂に向かった。きれいに紅葉した木もあり、足下にはリンドウも咲いていた。白いキクは何という名前だろうか？

山頂に着いたら、なんと展望も良く、富士見平より広いではないか。ここで昼食にしようと、置いたザックを取りに何人かの方が向かってくれた。

山頂からは、高速道路などの町の様子がよく見えたが、山々は雲に包まれてよく見えなかった。富士山も雲の中だった。



丸太の階段を渡る

山頂からは、来た道を戻り、富士見平からは、そのまま杉山新道方面に行く。杉山新道の1号路と2号路の分岐があったが、先頭がそのまま2号路に行ったので、2号路に行くことにする。この道は、私の94年版のエアリアマップにはなかったが、Yさんが持っていた最新版には、書かれていた。

しかし、この道はほとんど歩かれていないようだ。猪だろうか動物の足跡だらけの道だ。倒木もいくつかあってくぐり抜けたりして通過する。長い道を下っていくと、ようやく1号路と合流し、小さな沢を越えてさらに行くと、朝登っていった道に合流した。

国道に出て、左手を見ると、九鬼山がよく見えていた。

コースタイム

禾生駅(9:40)...尾根(10:45,10:55)...富士見平(11:40)...九鬼山(11:45,12:35)...禾生駅(14:20)

笹尾根(11月9日)

参加者 会員(障害者2名、健常者4名)

今日はすばらしい快晴だ。メンバーも少ないので、今回は展望の良い檜寄山に登ってから、笹尾根を縦走することにする。また、立川からの電車の中で、偶然出会ったUさんも同行することになった。

仲ノ平から橋を渡り、急なコンクリート道を登る。かなり高度を稼いだところで、民家の脇を通り、登山道に入る。やや滑りやすい道を登り、尾根の上に出る。木々の葉がやわらかな緑となって、色づきはじめています。昨年積もった落ち葉の上に、新しい落ち葉も積もり、かさこそと鳴る音が心地よい。

雑木の林には、所々目を見張るような真っ赤に色づいたモミジの葉が楽しませてくれる。木漏れ日となって差し込んだ日の光は、モミジの葉を透かして美しく輝いている。

尾根を登り切り、山腹をトラバースしていくとほどなく西原峠に到着する。周囲のカラマツの紅葉もきれいだった。檜寄山に着くと、目の前に新雪を抱いた富士山がよく見えた。その隣には三ツ峠が控え、北に目を移すと、三頭山が高く聳えている。



丸山山頂にて

今日は、これ以上の展望が得られないため、ゆっくりと休むことにする。山頂で30分ほど時を過ごし、笹尾根の縦走に向かう。西原峠を過

ぎて尾根の東面に出ると、樹林が切れ、大岳山や御前山が間近に見える。笹原も美しい。

歩きやすい道を快適に進む。後では、にぎやかな話し声が絶えない。時々立ち止まって待っていたが、話し始めると立ち止まったりしているので、先に進むことにする。途中、仲ノ平や上野原方面への分岐を通り過ぎ、笛吹峠でも休まず、丸山で昼食にする。今日、一番大きなパーティーが、先に昼食中だった。このパーティーとは、この先、抜きつ抜かれつしながら歩くことになる。



富士山と太陽

山頂は、展望が良くなかった。バスの時間が心配だったため、ゆっくりできないと思っていたが、それでも35分

間休憩を取り、重い腰を上げる。途中、富士山が望めるところがあり、手前の真っ赤に色づいたモミジと一緒に写真を撮ってみる。土俵岳の手前では、今日一番の紅葉ではないかと思われる美しく色づいたモミジに出会う。

土俵岳を越え、日原峠を越えて、さすがに疲れが出始めた頃、やっと浅間峠に到着する。日も傾きはじめ、気温もかなり下がってきたようだ。ここから、緩やかな尾根を下り、バイクの音が近づいてくると、ようやく車道に出た。予定のバスにもしっかりと間に合い、大人数のパーティーの前に着いたため、バスも座って五日市まで行くことができた。

コースタイム

仲ノ平(8:50)... 榎寄山(10:25,10:50)... 数馬峠
(11:30,11:40) ... 笛吹峠(12:15) ... 丸山

(12:30,13:05)... 土俵岳(13:50,14:00)... 浅間峠
(14:55,15:05)... 上川乗(15:55)

荒神山(11月13日)

参加者 会員(障害者6名、健常者7名)
会員外(健常者5名)

浅草から特急りょうもう号で相老に行き、相老からわたらせ溪谷鉄道で水沼駅に行くが、わたらせ溪谷鉄道の電車が着いて、みんなビックリ。たった1両しかない車両はすでに超満員。この中に、さらに50人以上が入ろうというのだ。駅員さんは、1時間後の電車は3両で来るので、それまで待ってくださいというが、それは困ります。ほとんどの乗客が必死になって乗り込みました。都会の通勤ラッシュさながらで、ぎゅうぎゅう詰めに押し込まれて出発です。車掌さんは、迷惑をおかけしますと言いつつも、「運転手も苦労しています」、さらに「わたらせ溪谷鉄道は赤字ですので、列車は増結できま



十月桜が咲いていた

せん」だって。のどかなローカル線らしい一こまに、みんな疲れながらも爆笑。

水沼駅でN先生と合流し、声出しをして出発。駅の裏にあるこんもりした山が荒神山だ。車に注意して車道を歩き、五月橋で渡良瀬川を渡り、

近道を探す。全く指導標がなかったが、車を降りた方に聞いて、ルートを確認する。

コンクリートの急な道を登り、車道に合流。そこからハイキング道の案内板のところまで休憩し、少し車道を歩いてから登山道に入っていく。



荒神山山頂にて

しばらくは杉の植林帯を歩く。途中、樹林が切れたところから、赤城山や袈裟丸山がよく見えた。学生さん達にもサポートしてもらい、ジグザグの道をぐんぐん登っていく。展望台への分岐を左に進む。次第に登山道は狭くなり、片側の急な斜面に落ちないように気を使いながら登っていく。学生さん達もしっかりとサポートして心強い。

植林帯がまばらになり、雑木林になる頃、日が当たってきた。これは山頂が近い証拠だ。ほどなく広場につき、そこから山頂を往復する。山頂は、狭く展望もないため、予定どおり展望台でお昼にすることにする。

広場に戻って、コンクリートの道を展望台に向けて歩き始めたら、どこかで見た人が登ってくる。あれ、「Sさんじゃないの〜」ビックリしつつも、視覚障害者のAさんに誰か当ててもらおう。みんな驚きと喜びで、一緒に歩いて展望台でゆっくりとお昼にする。

展望台は、素晴らしい見晴だった。赤城山と袈裟丸山、さらに袈裟丸山の右脇に白い雪を抱いた山が見える。地図で確認したら、日光の男体山だろうということになる。

展望台からは、緩やかで快適な道を下る。軽やかに下ることができ、あっという間に、登りの道と合流し、車道に出た。水沼駅で、温泉に入り、予定より1本早いトロッコ号に乗って相老に向かった。

紅葉は、まだ始まったばかりの感じで、今ひ

とつでしたが、楽しい交流を図れた1日でした。

コースタイム

水沼駅(10:45)...消化器のある分岐(11:10)...
広場(12:15)...荒神山(12:20,12:25)...展望台
(12:30,13:20)...水沼駅(14:20)

富士山雪上訓練(11月26日~27日)

参加者 会員(健常者4名)

11月26日

高速バスで河口湖駅に着くと、Aさんが車で来ていたので、乗せていただき、五合目まで行く。五合目では、まだ土産物店やレストランが経営をしていた。

五合目からお中道を佐藤小屋方面に行き、最初の分岐で上に登ることにする。このコースを行くと六角堂に行かれると思ったが、その上の安全指導センターの前に出たので、ここでテントを張ることにする。

テント設営後、七合目付近まで様子を見に行くが、ほとんど雪がなく雪上訓練にならないため、今回は山頂を目指すことにする。

11月27日

4時少し前に起床し、5時過ぎに出発する。空は満天の星空だ。天の川が流れ、オリオンや北斗七星が美しい。今朝は、水筒の水が凍るほど冷え込んだ。ゆっくりと七合目を目指す。山頂に向かうパーティーも、何パーティーがいるようだ。

七合目でアイゼンを付ける。七合目を出ると、すぐに御来光が姿を現した。今日の御来光は、

ひときわ大きく見えた。ここからは、次々に小



御来光

屋が現れる。Aさんは、アイゼンの調子が悪く、時間をかけて補修をしていたが、あっという間に追いついてきた。朝、頭が痛いといっていたHさんと、単調な登りが苦手のNさんは、かなり辛そうに登っている。



山頂付近に行くパーティー

これより八合目と書いた看板の上にある太子館で、先を目指すかどうか考えたが、もう少し

行ってみることにする。本八合目のトモ工館で、Hさんは待つことにする。Nさんは、バテバテだが、山頂を目指してみることにして、ザイルで繋ぎあって出発する。



幾分調子の戻ったNさんだが、最後の小屋、御来光館を過ぎたあたりから、Nさんの足取りが極めて重くなる。ただ、下りになれば、すぐに元気になることを知っているため、Aさんが励ましながら登る。傾斜はかなり急になってきた。スリッパは許されないが、ザイルで繋ぎあっているため、安心して登る。

苦しみながらも最後の鳥居をくぐって、山頂に着いた。抜きつ抜かれつした女性2人のパーティーとお互いに写真を取り合う。固く閉ざさ

れた売店の通路を通り、お釜と剣ヶ峰が見えるところまで行き、記念写真を撮る。積雪は、非常に少なく感じた。

下でHさんが待っているため、早々に山頂を後にする。ザイルで繋ぎあっていたが、下りはアイゼンをしっかり利かせて、快適に下りていく。山頂から40分ほどで本八合の小屋に着いたが、Hさんは寒さに耐えかねて、すでに下山していた。

快調だった足取りも、疲れから次第に重くなり、ゆっくりと下る。七合目のアイゼンを付けたところで、Hさんと合流した。ここから私とHさんで少し急ぎ、テントの撤収を行う。影富士が裾野に長く伸びていた。

コースタイム

- 11/26 五合目(13:00)...六合目(13:45)...七合目まで往復
- 11/27 六合目安全指導センター(5:05)...七合目(6:00,6:25)...八合目太子館(8:00)...本八合目トモ工館(10:00,10:10)...御来光館(10:30)...富士山久須志神社(11:55,12:05)...本八合(12:50)...六合目(15:10,16:00)...五合目(16:30)

【立教大学の学生からの感想】

Sさん

今日は皆と一緒に自然と触れ合い、荒神山を登ってきました。一回目は自分がいつもサポーターとして、相手(目が不自由な方)はサポーターされる側として思い込んでしまって、緊張しすぎて、疲れましたが、今回は相手に普通の人として、お互い楽しく登ることができました。だから、今回はとても気楽だったような気がします。

さて、今回の登山を通じて、二つのことを気づきました。

一つは、日本人の心ということです。荒神山に向かう途中で、電車は1時間ごとに一本の電車しか通らない小さな駅で止まりました。しかし、待っている旅人が多すぎて、全部乗るのは無理という状況の下で、皆一人一人が我慢して、缶詰みたいになって結局全部乗り込みました。もしも、中国ではこのようなことがあったら、きつとうまくいかないだろう。

「なんで俺が我慢しなければならないとか、お前らは次の電車を利用すればいいじゃない、俺も1時間ぐらいを待っていたからとか」こういう考えを持っている人は少なくありません。実際はそういうことが常に起こっています。ですから、この点について、私は中国人が日本人を学んだほうがいいかもしれないと思います。また、私はこのことを体験して、「電車の広さが限られているが、人間の心の広さがかぎられていないな」と感心しました。

もう一つは、目の不自由の方々が持っている素晴らしい人生観ということです。自分が障害をもっているのに、敢えて外を出て、自然と触れ合いと同時に、多くの人々とかわりしながらという自分の人生を豊にする前向きな姿が素晴らしいことだと思います。

最後に、私はこのフィールドスタディに参加して、よかったと思います。また、このNPO山仲間アルプのおかげで、いい体験できました。有難うございました！

Bさん

『山仲間アルプの活動に参加して』

授業の一環として、10月15日の伊豆ヶ岳と11月13日の荒神山の2回、山仲間アルプの登山活動に参加させてもらいました。初めは、目の見えない人たちのサポートだから、完全にボランティアとして参加するのだろうなという気持ちでいました。事前に、校内を目隠しをして歩き、サポートしてもらった体験をしていたけれど、いざ自分がサポートできるか、と考えたら不安な気持ちもありました。

そんながちがち気持ちで臨んだ一回目。集合場所から現地までも、実際に目の見えない人と近くで接するのははじめてだったので、緊張していました。

私は、2つに分かれた班のうち、弱視の方のサポートをする班に入りました。山を登り始めてだんだん緊張も解けてきて、綺麗な花、虫、柿の木、山から見える風景、色々な話をしながら歩きました。普通だったら、「あっ、見えないのに言ってもいいのかな」と悩んだり、変に気を使ったりしそうな場面でも、アルプのみなさんは、言葉を通して皆で風景を楽しんでいました。その様子を見て、登山前に読ませていただいた網干さんの本を思い出しました。

～一緒に楽しむ～

こういうことなんだなと実感しました。目でなくても、楽しむ要素はたくさんある。そして、何より、皆で一緒に山に登ることが楽しいのだと。でも、慣れてくるとサポートが必要なところでも、ついつい話に夢中になってしまって、しっかりサポートもしなくては！と少し焦るときもありました。また、私のサポートは声かけが多すぎるので、サポートされる側からは、少し緊張しすぎてしまうらしく、もう少し声かけが少なくても平気だよ、と言われてしまいました。これは、2回目の登山の際にも言われたので、私の悪いところは言い過ぎるとだと分かりました。

登山すること自体、普段の生活では触れないことです。さらに、サポートしながら登ることなんて、もっと触れないことです。でも、普段の日常から一歩足を伸ばしたところに、色々な人と触れ合える場所がある。それを経験する良い機会を与えてもらえたと思います。

普段、目の見える人「健常者」と見えない人「視覚障がい者」として分けられています。けれど、実際に会って、そこに関係が生じたら、それはいち人間と人間の間関係の形成なんだなぁということを身を持って感じました。だから、ボランティアとして一緒に山に登っても、サポートが必要なときはサポートする、でも、基本は一緒に楽しむ。そうやって、色々なことを一緒に楽しむことが大切なことなんだと感じました。2回とも、山登りを終えたときには、すっかり不安もなくて、充実した気持ちでいっぱいでした。ただ、終わってしばらく経った今から考えてみれば、サポートされていた側が不安いっぱいだったら申し訳なかったと思います。

山仲間アルプでの2回の登山での経験で学んだことはたくさんあります。特に、考え方、気持ちの面で、学ぶことが多くありました。そして、それ以上に楽しい経験が心に残っています。

網干さんをはじめ、アルプのみなさん、お世話になりました。

講習会報告

岩登り講習会(日和田山)(9月11日)

参加者 会員(健常者5名)

前日、ふれあいハイキングで来たばかりだが、今日は岩トレです。前日は咲いていなかった彼岸花が、今日はちらほらと咲き始めていました。1日でこんなにも違うものだということが分かりました。

今回は、わりと空いていたので、最初から男

岩を登ります。いつも登る南面の岩場を全員でクリアし、昼食後西面に向かいます。下部のアンダーリングフェースと上部は4級+のクラックをレイバックで登るルートにトライしました。ただ、全員がチャレンジする前に、雷から大粒の雨が降り出したため、すぐに中止にしました。濡れた岩場は、つるつるでとても登れる状態ではありませんでした。

岩登り講習会(鷹取山)(11月6日)

参加者 会員(視覚障害者4名、健常者8名)
会員外(健常者1名)

今回は、岩登りをしない方も楽しめるよう、豚汁などを作るグループにも参加していただき、少し肌寒い1日だったが楽しめたと思う。

鷹取公園の両サイドにある初心者向けの岩



垂直の壁に挑む視覚障害者のNさん
場を中心に登った。ザイルのセットに使う3m

程の高さのところを登り、続いて垂直の岩場にチャレンジ。最初の部分で苦労していたが、視覚障害者の人たちも最後まで登ることができた。

お昼は、作っていただいた餅入りの豚汁で体が温まる。鳥肉や漬け物、なし、リンゴ、柿、ぶどう、みかんなども果物もふんだんにいただ

き、腹が重くて登れるか心配になるほどだった。

午後からは、傾斜の緩い初心者向けのカンテを登る。こちらも、みんなで登ったが、途中で雨が降り出し、引き揚げることにした。今回、初参加のYさんには物足りなかったと思うが、また参加していただけたらと思います。ザイルでの確保など、お世話になりました。

その他事業報告

第6回ふれあいハイキング(巾着田)(9月10日)

参加者 会員(障害者2名、健常者12名)

彼岸花の開花が心配だったが、今年は昨年よりかなり遅いようで、ほとんど咲いていなかった。高麗駅から巾着田に向かう道ばたで、何本か蕾を見たが、完全に咲いているものは1本もなかった。

巾着田を斜めに横断する中央の道を歩く。小川には、ハグロトンボが舞い、雌のトンボは産卵中で近づいても逃げなかった。お昼は、高麗川の河原に下り、木陰で取ることにする。コーヒーを作ってみなさんに振る舞う。昼食後は、素足になって高麗川に入り、冷たい流れを楽しんだ。

このあと、オプションで考えていた日和田山に登ろうと思ったが、あまりの暑さにみなさんに相談する。時間がまだかなり早いこともあり、日和田山に行こうという意見があったので、岩場経路で行くことにする。岩場では、ザイルを必要としない傾斜の緩いところで、登り降りをした楽しむ。ここから尾根に登ると、遊歩道の

ようになっていた。少し行くと、高麗神社の鳥居がある岩場に到着。ここで



緑豊かな巾着田を歩く

休む人たち1人と離れ、残り的人たちは山頂に向かう。滑りやすい岩があり、慎重にサポートしながら行くと、日和田山の山頂に飛び出す。麓がよく見えていた。山頂の石碑には、バッタが産卵していた。植物講師のKさんに教えられて、始めて見る光景だった。

山頂からは、高麗神社まで来た道を引き返し、そこからは女坂経路で下ることにする。この道も広いものの滑りやすく、気をつけて下らなければならなかった。最後の暑いコンクリートの道をゆっくりと歩き、高麗駅に到着した。

八千代市サポートセンターまつり

参加者 会員(障害者2名、健常者11名)

今年も開催した「こんにち'わ'ふれあいまつり」に山仲間アルプも写真展示などで参加しました。

八千代市の「市民活動サポートセンター」が、

第7回ふれあいハイキング(長瀬自然のみち)(11月20日)

参加者 会員(障害者3名、健常者15名)
会員外(障害者3名、健常者5名)

見つけたKさんに教えていただき、クレソンの収穫を楽しむ。

長瀬駅に降り立ち、車で来たKさんたち、そして小川町方面から来たSさん親子と合流し、踏切を渡って北桜道を歩き始める。早速、柿の木にヒヨドリやメジロが姿を現す。道路を隔てた反対側には、ヒッヒッヒッと鳴くジョウビタキが見つかり、フィールドスコープに姿を入れて、数人の方に見ていただく。

長い門の家を通り過ぎ、右手の細い道を曲がると、金石水管橋だ。ここは、今日一番のビューポイント。橋の上から荒川の流れと紅葉を楽しむ。橋の下をライン下りの舟が通り過ぎていった。

橋を渡った所にある長瀬オートキャンプ場で昼食にする。紅葉が美しく、色とりどりの落ち葉の絨毯の上に座り、持ってきた昼食を食べる。鶏の唐揚げを持ってきてくれたMさんが、みなさんに振る舞ってくれた。

木々の枝を、エナガ、シジュウカラ、コゲラなどが飛び交っている。河原に下りると、ライン下りの舟が流れていった。キセキレイがチチンチチンと鳴きながら舞っている。クレソンを



長瀬オートキャンプ場での昼食風景

キャンプ場からは、細い道を歩きながら、暖かな陽射しを楽しむ。車道に出て少し行くと、長瀬自然のみちに入っていく。紅葉が美しく、右の崖下には、荒川と石畳がよく見える。途中の崖で、岩登りのまねごとをしたりしながら、日だまりの中をゆっくりと歩く。

自然のみちを抜け、車道の脇の歩道を歩く。小さな川を渡るところで右手に曲がり、民家の軒先にぶら下げられた柿などを楽しみながら、親鼻橋を渡り、車の通りの少ない道を通って、最後は道のないところを歩いて上長瀬駅の脇にある踏切に出た。

上長瀬駅で解散となるが、タイミング良く秩父方面から蒸気機関車が走ってきた。ラッキーな出会いを楽しみ、反対方面に帰るSさん親子を見送る。Yちゃんとは、再来週の陣馬山での再会を約束する。

帰りの電車は、みんな疲れが出て、爆睡状態で池袋に着いた。

各種連絡事項

理事会の議事録

今回から、理事会の議事録を同封しました。内容をご確認いただき、会員のみならず、ぜひ

ひ運営状況の把握と、より良い運営のために、アドバイスやご協力をお願いします。

交通費各自支払いのお願い

これまで、交通費や宿泊費については、ボランティアをお願いしたりして個人的に取り纏めを行ってききましたが、今後は、各自で購入することを原則とします。なお、宿泊予約や指定

席を取る必要がある場合などは参加メンバーの方をお願いして、ボランティアで取り纏めをお願いする場合があります。不明な点は、電話などでご連絡をお願いします。

参加費振り込みのお願い

細則第2条に記載があるとおり、参加費が1000円を越える場合は、原則として山行実施日の5日前までに振り込みをお願いします。振り込み口座は、「口座番号00230-8-

38591 名義:山仲間アルプ」です。なお、時間的な都合などで振り込みが無理な方は、当日でもかまいません。

ホームページ情報

ホームページのアクセス数は、11月末日現在約23400のアクセスがありました。ホームページは、機関誌に掲載できない多くの写真が掲載されています。また、各種情報も迅速に流しています。パソコンをお持ちの方は、ぜひご覧ください。さらに、メールを使える方同士

で、メーリングリストも運営していますので、パソコンをお持ちの方で、メーリングリストに参加を希望される方は事務局まで申し込みください。もし、これからパソコンを購入したいという方がいましたら、ぜひ事務局までご相談ください。

広告掲載のお知らせ

SES山岳映画サロンの「山岳映画の夕」のパンフレットに山仲間アルプの広告を掲載しま

した。

今後の計画

2005年度活動計画

来年1月以降の事業計画を別紙に掲載しています。昨年1月に強風で敗退した那須岳など

も計画していますので、ぜひご参加ください。

来年度の事業計画とご意見を募集

来年度の事業計画として、行ってみたい山や、共に楽しむことを通じて、もっとこんな社会貢

献をしたらよいのではないかというご意見を募集中です。また、その他、もっとこうした方

が良いというようなご意見を募集中です。同封した青い鳥はがきにご記入の上、返信お願いし

ます。

個人山行の計画

個人山行を計画されている方は、事務局まで計画書を提出ください。計画書を提出していないと、スポーツ保険の対象にならない可能性が

大です。もしもの時のために、必ず提出するように心がけてください。

会員情報

新入会員のお知らせ

9月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願いします。(敬称略)

賛助会員 7名

退会者のお知らせ

残念ですが、ご都合により、下記の方が退会されました。(敬称略)

1名

編集後記

・理事長のつぶやき

山仲間アルプは、一昨年4月に16名の正会員で産声を上げましたが、みなさまのおかげで現在正会員、賛助会員合わせて98名の会員数となりました。来年4月を迎えると創立からまる3年となります。ここまで、成長できたのは、みなさまのおかげと深く感謝しています。

4年目を迎えるに当たって、老若男女、障害の有無を問わず、共に楽しむことの大切さをもっと多くの方に知っていただきたいと思っています。自分の夢を叶えるだけなら、

力の揃った仲間同士と行ったり、プロガイドを利用すれば良いのですが、力の大きく違う仲間同士が「共に楽しむ」ためには、必ず相手の気持ちになって考えることが必要になります。

心豊かな社会は、自分中心ではなく、相手の気持ちになって考えることができなければ実現することができないと思います。心豊かな社会づくりに繋がる「共に楽しむ」ことを大切にしている当法人の活動を、来年は子ども達に伝えていきたいと考えていま

す。将来を担う子ども達が、思いやりの気持ちを持つ心豊かな人間に育つことが、今、一番大切なことなのではないかと思うからです。

みなさまからも、山仲間アルプの活動を通

じて「共に楽しむ」ことの大切さを、誰にどんな形で伝えたらよいか、ぜひアイデアをいただきたいと思います。同封のはがきや電子メールなどで、ご意見をお寄せください。

- ・次回発行予定は、3月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

